様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：２４５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０４９２

研究課題名（和文）現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究

研究課題名（英文）A morphological study of the languages of Modern Spain

研究代表者
福嶌　教隆（FUKUSHIMA, NORITAKA）

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：５０１０２７９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：スペインでは，一般に「スペイン語」と呼ばれている「カスティーリャ語」以外に，カタロニア語、ガリシア語，バスク語などが用いられている。本研究では，これら４つの言語の形態論的特徴を17の項目について対比した一覧を作成し、またそれぞれの言語の形態論に関する5本の論文を発表して，多言語国家の言語使用状況の理解と語学教育に貢献した。

研究成果の概要（英文）：This project focuses on the four major languages spoken in Spain, Castilian (Spanish), Catalan, Galician and Basque. It provides a table of 17 morphological items that compare the properties of these languages and five monographs on morphology in them. Together they show some aspects of the actual situation of a multilingual nation, and provide insight and recommendations for foreign language instruction.

研究分野：人文学

キーワード：言語学　その他の言語　スペインの諸言語　カスティーリャ語（スペイン語）　カタロニア語　ガリシア語　バスク語　形態論

１．研究開始当初の背景

スペインの諸言語それぞれに関する研究は，近年我が国においても進展が著しく，ことに主要な４言語であるカスティーリャ語（スペイン語），カタロニア語，ガリシア語，バスク語については多くの成果が公にされている。しかし各言語の構造そのものを単一の視点から横断的に扱おうとする試みは，まだ十分とは言えなかった。

前々回の科学研究費補助金研究（基盤研究(C)，研究期間：2007～2009 年度，課題番号：19520359，研究課題名：「現代スペイの諸言語に関する統語的研究」）では，統語論において上記の問題を克服しようとつとめた。前回の研究（基盤研究(C)，研究期間：2010～2012 年度，課題番号：22520440，研究科題名：「現代スペインの諸言語の語彙に関する対比的研究」）では，語彙論に焦点を当てた。そして第 3 期となる今回は，同様の方針をとりつつ，各言語の形態論の探究を行った。

２．研究の目的

本研究の目的は，多言語国家スペインで用いられている諸言語の形態論に関するさまざまな問題について，共通の問題意識をもった記述と分析を行うことにある。対象とする言語とその担当者は次のとおりである。

A) スペイン語（カスティーリャ語）：福嶌教隆（研究代表者）
B) カタロニア語：長谷川信弥（研究分担者）
C) ガリシア語：浅香武和（研究分担者）
D) バスク語：吉田浩美（研究分担者）

３．研究の方法

上記 4 人の構成員がそれぞれの言語の形態論に関する問題を担当し，研究代表者がそれを統括した。

(1) 平成 25 年（2013 年）度

平成 25 年 10 月，研究チームは研究会を開催し，各言語に関する以下の発表を行った。① 福嶌教隆「カスティーリャ語接続法過去形の２つの形態について」，② 長谷川信弥「カタロニア語の形態論的特徴」，③ 浅香武和「ガリシア語における複数形の形態の疑問点」，④ 吉田浩美「バスク語の動機格語尾などと後置詞」。

同日の討議で，① 最終年度に全国規模の学会で合同発表をすること，② 研究成果を報告書の形で公表することを目標に掲げた。③ さらに，報告書には「スペインの諸言語の形態論対比一覧」を掲載することとし，その作成のため，対比するための項目の選定を開始した。

10 月，福嶌教隆はセルバンテス文化センター東京で開催されたスペイン学の国際学会で研究発表を行った。

11 月，吉田浩美は神戸市外国語大学で開催された日本言語学会の大会でバスク語に関する研究発表を行った。

(2) 平成 26 年（2014 年）度

平成 26 年 12 月，研究会を開催し，各言語に関する発表を行い，以下の発表を行った。① 福嶌教隆「カスティーリャ語接続法過去形の２つの形態に関する諸問題」，② 長谷川信弥「カタロニア語の評価接尾辞について」，③ 浅香武和「カバニージャス『海からの風』におけるガリシア語の形態」，④ 吉田浩美「親称 2 人称で扱える単数の聞き手に対する言葉遣いに現れる動詞・助動詞の活用形（バスク語アスペイティア方言）」。

同研究会で各々の研究の進展を確認し，時年度研究発表を行う全国規模の学会の候補として SELE（日本スペイン語学セミナー）第 35 回大会を選定した。

４～６月，福嶌教隆はスペインのアルカラ大学（Universidad de Alcalá）に交換教員として派遣され，日本語・日本文化の講義を担当する傍ら，スペインの研究者と意見交換をし，資料を収集した。

5 月，浅香武和はセルバンテス文化センター東京においてガリシア文学に関する講演を行った。

8 月，浅香武和は，スペインのカンバドス（Cambados）において，ガリシア文学に関する講演を行った。

12 月，長谷川信弥は名古屋市立大学で開催された多言語社会研究会大会において研究発表を行った。

平成 27 年 3 月，長谷川信弥はスペインのバルセロナ大学（Universitat de Barcelona）とバレンシア大学（Universitat de València）に赴き，同大学の研究者と意見交換をし，研究調査と資料収集を実施した。

３月，吉田浩美は京都大学で開かれたユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会において研究発表を行った。

(3) 平成 27 年（2015 年）度

平成 27 年８月，研究チームは静岡県で開催された日本スペイン語学セミナー（SELE 2015）第 35 回大会で「スペインの諸言語の形態論に関する諸問題」というテーマでワークショップを開き，それぞれが以下の研究発表を行い，それに基づいて活発な討議が行われた。① 福嶌教隆「カスティーリャ語接続法の ra 形と se 形について」，② 長谷川信弥「カタロニア語とスペイン語における評価接尾辞について」，③ 浅香武和「ガリシア語エオナビア地域における-ín について」，④ 吉田浩美「バスク語の後置詞と格語尾の問題―共通バスク語と，バスク語アスペイティア方言の場合―（予備的考察）」。

5 月，福嶌教隆は，南山大学で開かれた日本・スペイン・ラテンアメリカ学会の大会において研究発表を行った，

5 月，浅香武和は東京外国語大学で開かれた日本ロマンス語学会で研究発表を行った。

7 月，浅香武和は，スペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ（Santiago de Compostela）の人文学研究所で講演を行った。

10 月，福嶌教隆は，セルバンテス文化セン

ター東京で開かれたスペイン学に関する国際学会において研究発表を行った。

平成 28 年 2 月，吉田浩美は，スペインのバスク地方に赴き，現地調査を行った。

3 月，長谷川信弥はスペインのバルセロナ大学（Universitat de Barcelona）とバレンシア大学（Universitat de València）に赴き，同大学の研究者と意見交換をし，研究調査と資料収集を実施した。

この年度は，メンバー一同で本報告書の執筆・編集を行い，3 月に 200 部を刊行した。

４．研究成果

本研究は，最終年度に全国規模の学会でワークショップを開催したこと，及び本報告書を出版したことという，具体的な成果をもって締めくくることができた。

(1) 平成 27 年（2015 年）8 月 26～28 日にわたって静岡県掛川市のヤマハリゾートつま恋にて開催された日本スペイン語学セミナー（SELE）第 35 回大会の第 2 日（8 月 27 日）に，ワークショップ「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」を実施し，4 人の構成員全員が口頭発表を行った。

題目は「２．研究の方法」に記したとおりである。参加者から多数の質問や意見が出され，活発な議論が行われた。これによって，是ｗの国規模の学会で合同発表をする，という当初からの目標が達成された。その内容は次に記す研究報告書に掲載されている。また，関西スペイン語学研究会の機関誌 *Lingüística Hispánica* 38 号（近刊）に要旨が掲載の予定である。

(2) 平成 28 年（2016 年）3 月 31 日，研究報告書を刊行した。題名：『現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究』，著者：福嶌教隆，長谷川信弥，浅香武和，吉田浩美 + 安達直樹。構成：第 1 章「研究概要：，第 2 章「スペインの諸言語の形態論対比一覧」，第 3 章「スペインの諸言語の形態論の研究」，第 4 章「スペインの諸言語に関する日本における文献一覧」。A4hann ,242 頁，200 部。

本報告書は「スペインの諸言語のロゼッタ・ストーン」，あるいは「現代の Biblia Políglota Complutense」の一部を成すべく編まれた一連の著作の第 3 巻の位置を占めるものである。

第 1 章「研究概要」（pp.13-16）は，本研究の趣旨の説明に充てられている。また，この章の前に構成員の平成 25～27 年度の研究・教育業績の一覧を掲げている。

第２章「スペインの諸言語の形態論対比一覧」（pp.17-51）は，「スペインの諸言語のロゼッタ・ストーン」を創るという目標を端的に具現した章であると言える。17 の項目について見開きの形で４言語の主な特徴を記述している。

第３章「スペインの諸言語の形態論の研究」（pp.53-215）には，①に記したワークショップでの発表内容を発展させた論考３本（カスティーリャ語，カタロニア語，バスク語）と，ガリシア語の人名定冠詞に関する論考をおさめた。このうちカスティーリャ語に関する論考は，使用言語もカスティーリャ語である。更に，スペイン王立学士院によるカスティーリャ語の形態論の取り扱いを論じた，安達直樹 立命館大学政策科学部助教の論文を，ここに加えることができた。これにより，形態論の全体像に関する話題を提供することができて，本報告書の充実がはかれたと考える。

第４章「スペインの諸言語に関する日本における文献一覧」（pp.217-240）は，これまでに蓄えられた知見の存在を知らしめる目的で編まれた章である。扱われた言語を左端に記号で記し，検索を容易にしている。前回，前々回の報告書に掲げた文献一覧の漏れを補い，誤りを修正し，この３年間に公表された研究を追加した結果，前回より３ページ増の 24 ページのリストになった。

本研究は，カスティーリャ語，カタロニア語，ガリシア語というロマンス諸語だけでなく，全く系統の異なるバスク語をも対象とすることによって，広い視界を得ている。また，いずれの言語にも偏らず４方向から均等に照射することによって，スペインの言語状況を隈なく浮き上がらせる点が大きな特徴である。前々回の統語論に関する報告書，ならびに前回の語彙論に関する報告書に続き，この形態論に関する報告書を上梓することができた。幸い，平成 28～30 年度の科学研究費助成事業として，「現代スペインの諸言語の音声・音韻論的現象に関する対比的研究」（基盤研究(C)，課題番号 16K02635）が承認されたので，続く 3 年間，このチームでの研究を発展させていき，最終的には共同研究の成果を１つの書籍の形にまとめて上梓することができればと願っている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２０件）

⑴ 福嶌教隆・長谷川信弥・浅香武和・吉田浩美・安達直樹（2016）2013）『現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究』（共著。各人５分の１を担当），平成 25～27 年度科研基盤研究（C）課題番号 25370492 研究報告書（査読なし），242Pp., 神戸市外国語大学。

⑵ 福嶌教隆・長谷川信弥・浅香武和・吉田浩美（2013）『現代スペインの諸言語の語彙に関する対比的研究』（共著。それぞれ４分の１を担当），平成 22～24 年度科研基盤研究（C）課題番号 22520440 研究報告書（査読なし），188Pp., 神戸市外国語大学。

⑶ 福嶌教隆（2015）『医療通訳・コーディネーターの育成：大学教育カリキュラムの可能性』（日本学術振興会科学研究費プロジェク

ト 医療通訳・コーディネーターの教育プログラムの看護大学と外国語大学による共同開発研究成果報告）（金川克子・編）（共著。「単位互換講座「医療通訳・コーディネーター入門」についての報告」，pp.17-20 担当）（査読なし），神戸市看護大学。
(4) 福嶌教隆（2015）「日本文学のスペイン語訳についての一試案」，『愛知県立大学文字文化財研究所紀要』（査読なし）第 1 号，pp.133-152, 愛知県立大学文字文化財研究所。
(5) 福嶌教隆（2015）”Una ojeada a la traducción de la literatura japonesa al español por Antonio Cabezas García”, *Ensayos en honor del profesor Antonio Cabezas*（『スペイン語世界のことばと文化』（査読なし），pp.83-102, 京都外国語大学。
(6) 福嶌教隆（2014）*Encuesta sobre problemas sintácticos de la lengua española (4). Salamanca (España), Cuba y Puerto Rico. (Proyecto VARIGRAMA)*（高垣敏博, 上田博人, 宮本正美, 福嶌教隆, Antonio Ruiz Tinoco）（共著。基礎作業の５分の１を担当），（共著。基礎作業の 5 分の 1 を担当），平成 23～25 年度科学研究費研究報告書（査読なし），232Pp., 東京外国語大学。
(7) 福嶌教隆（2014）「日本語に接続法は存在するか？」，『神戸外大論叢』（査読なし）65:3, pp.1-25, 神戸市外国語大学。
(8) 福嶌教隆（2014）*El español y el japonés*（神戸市外国語大学研究叢書第 53 号）（査読なし），神戸市外国語大学，190Pp.
(9) 福嶌教隆（2014）“Funcionamiento de las universidades japonesas y su relación con las empresas”, *El Adelantado de Segovia*（新聞記事）, Segovia (Spain), 2014 年 5 月 7 日, p.2.
(10) 福嶌教隆（2013）「スペイン語の前置詞概観 ―a と de を中心に―」，『ロマンス語研究』（査読あり）46, 日本ロマンス語学会，pp.35-43。
(11) 福嶌教隆（2013）「日西モダリティ対照研究史（１），（２）」，『神戸外大論叢』（査読なし）63: 3,pp.3-12, 同 64:5, pp.3-17, 神戸市外国語大学。
(12) 長谷川信弥（2015）「越境する少数言語の射程 ―現代スペインにおける国家語と少数言語の対外普及政策―」（萩尾生・塚原信行・柿原武史と共著），『ことばと社会』（査読あり）第 17 号，pp.112-159，三元社。
(13) 浅香武和（2016）「『四国対照南米語自在』を巡って」，『スペイン学』（査読なし）18, pp.51-56, 京都セルバンテス懇話会。
(14) 浅香武和（2015）「ガリシアのサン・マルティン・デ・スワルナ村の言語生活」，『津田塾大学国際関係研究所報』（査読なし）50, pp.32-40，津田塾大学。
(15) 浅香武和（2014）「紹介『ガリシア心の歌・ラモーン・カバニージャスを歌う』」，*Acueducto*（査読なし），18, p.43，Adelante 社，大阪。
(16) 浅香武和（2014）「外務省第一回スペイン留学生三浦荒次郎」,『スペイン学』（査読なし）16, pp.32-39. 京都セルバンテス懇話会。
(17) 浅香武和（2013）「ガリシアの吟遊詩人を訪ねる旅」，『津田塾大学国際関係研究所報』（査読なし）48, pp.9-22，津田塾大学。
(18) 浅香武和（2013）“As linguas no Xapón”, *Campus Culturae 2014*（査読なし），pp.10-13, Universidade de Santiago de Compostela.
(19) 浅香武和（2013）「翻訳：「さようなら川よ」，「そよ風さん」」（査読無し），デジタル版，www.rosaliadecastro.org, Fundación Rosalía de Castro, O Padrón, Pontevedra.
(20) 吉田浩美（2014）「『バスク語初文集』の韻律・表記・音声について」，『バスク語初文集』(萩尾 生，吉田浩美・編訳)（査読なし），pp.200- 232, 平凡社。

〔学会発表〕（計２８件）
(1) 福嶌教隆（2015）「スペイン語の役割語」，関西外国語大学公開講座，於関西外国語大学（枚方市），2015 年 11 月 12 日。
(2) 福嶌教隆（2015）”Pasado, presente y futuro del subjuntivo en español”, 2º. Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica en Japón, 於セルバンテス文化センター東京，2015 年 10 月３日。
(3) 福嶌教隆（2015）「カスティーリャ語接続法の ra 形と se 形について」，日本スペイン語学セミナー第 35 回大会（SELE 2015），於ヤマハリゾートつま恋（静岡県掛川市），2015 年 8 月 27 日。
(4) 福嶌教隆（2015）”Indicativo y subjuntivo. Reglas de uso”, 日本・スペイン・ラテンアメリカ学会（CANELA）第 37 回大会，於南山大学（名古屋市），2015 年 5 月 16 日。
(5) 福嶌教隆（2014）「日本文学のスペイン語訳について ―日西対照研究のヒント―」，日本スペイン語学セミナー第 34 回大会（SELE 2014），於ヤマハリゾートつま恋（静岡県掛川市），2014 年９月２日。
(6) 福嶌教隆（2014）“Funcionamiento de las universidades japonesas y su relación con las empresas”, Conferencia especial de la Universidad Nacional a Distancia 講演，於 Centro Asociado de la UNED de Segovia, Segovia (Spain), 2014 年 5 月 8 日。
(7) 福嶌教隆（2014）「カスティーリャ語接続法過去形の２つの形態に関する諸問題」，平成 25～27 年度科研基盤研究（C）課題番号 25370492「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」研究会，於ホテル新大阪東口ステーションビル（大阪市），2014 年 12 月 29 日。
(8) 福嶌教隆（2013）「日本文学をスペイン語に訳すときの問題点 ―人称，数，性，話し手など―」，「「私語り」の成立と展開 ―日本とヨーロッパの言語文化における複合的新研究―」研究会主催講演会，於愛知県立大学，

2013 年 11 月 14 日。
(9) 福嶌教隆 (2013)「カスティーリャ語接続法過去形の２つの形態について」，平成 25～27 年度科研基盤研究(C)課題番号 25370492「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」研究会，於三井ガーデンホテル四谷（東京都），2013 年 10 月 13 日。
(10) 福嶌教隆（2013）"¿Existe el modo subjuntivo en japonés?", Ier Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica en Japón + ALFALito (Congreso de la Asociación de Lingüística y Filología de América Latina), 於セルバンテス文化センター東京，2013 年 10 月３日。
(11) 福嶌教隆(2013) "La NHK y el español", 「スペイン語文化研究者との出会い」第２回講演会，於セルバンテス文化センター東京，2013 年７月 27 日。
(12) 長谷川信弥（2015)「カタロニア語とスペイン語における評価接尾辞について」，日本スペイン語学セミナー第 35 回大会(SELE 2015)，於ヤマハリゾートつま恋（静岡県掛川市），2015 年 8 月 27 日。
(13) 長谷川信弥（2015)「カタロニア語の評価接尾辞について」，関西スペイン語学研究会第 385 回例会，於関西学院大学梅田キャンパス，2015 年 6 月 7 日。
(14) 長谷川信弥（2014)「カタロニア語の評価接尾辞について」，平成 25～27 年度科研基盤研究（C）課題番号 25370492「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」研究会，於ホテル新大阪東口ステーションビル（大阪市），2014 年 12 月 29 日。
(15) 長谷川信弥(2014)「スペイン語の事例」，第 8 回多言語社会研究会大会，シンポジウム「越境する少数言語の射程 －現代スペインにおける国家語と少数言語の対外普及政策－」，於名古屋市立大学，2014 年 12 月 7 日。
(16) 長谷川信弥(2013)「カタロニア語の形態論的特徴」，平成 25～27 年度科研基盤研究（C）課題番号 25370492「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」研究会，於三井ガーデンホテル四谷（東京都），2013 年 10 月 13 日。
(17) 浅香武和（2015)「ガリシア語エオナビア地域における -ín について」，日本スペイン語学セミナー第 35 回大会（SELE 2015)，於ヤマハリゾートつま恋（静岡県掛川市），2015 年 8 月 27 日。
(18) 浅香武和(2015) "Presentación do libro "Xograr Martín Codax"", 於 Centro Ramón Piñeiro para a Investigación en Humanidades, Santiago de Compostela (Spain), 2015 年 7 月 31 日。
(19) 浅香武和（2015)「ガリシア語における人名定冠詞について」，日本ロマンス語学会第 53 回大会，於東京外国語大学，2015 年 5 月 23 日。
(20) 浅香武和（2014)「カバニージャス『海からの風』におけるガリシア語の形態」，平成 25～27 年度科研基盤研究（C）課題番号 25370492「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」研究会，於ホテル新大阪東口ステーションビル（大阪市），2014 年 12 月 29 日。
(21) 浅香武和（2014）"Cantata a Ramón Cabanillas, "Galicia, canción da alma", 於 Auditorio da Xuventude de Concello de Cambados, Cambados (Spain), 2014 年 8 月 6 日。
(22) 浅香武和（2014)「ガリシア文学の日について」，於セルバンテス文化センター東京，2014 年 5 月 17 日。
(23) 浅香武和（2013)「ガリシア語における複数形の形態の疑問点」，平成 25～27 年度科研基盤研究（C）課題番号 25370492「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」研究会，於三井ガーデンホテル四谷（東京都），2013 年 10 月 13 日。
(24) 吉田浩美（2015)「バスク語（アスペイティア方言）の後置詞と格語尾の問題（予備的考察)」，2014 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会，於京都大学羽田記念館，2015 年 3 月 27 日。
(25) 吉田浩美（2015)「バスク語の後置詞と格語尾の問題 ―共通バスク語と，バスク語アスペイティア方言の場合―（予備的考察)」，日本スペイン語学セミナー第 35 回大会（SELE 2015)，於ヤマハリゾートつま恋（静岡県掛川市），2015 年 8 月 27 日。
(26) 吉田浩美（2014)「親称２人称で扱える単数の聞き手に対する言葉遣いに現れる動詞・助動詞の活用形（バスク語アスペイティア方言)」，平成 25～27 年度科研基盤研究（C）課題番号 25370492「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」研究会，於ホテル新大阪東口ステーションビル（大阪市），2014 年 12 月 29 日。
(27) 吉田浩美（2013)「バスク語アスペイティア方言の〈ABS－V－AUX〉の構造と再帰行為・相互行為」，日本言語学会第 147 回大会，於神戸市外国語大学，2013 年 11 月 23 日。
(28) 吉田浩美（2013)「バスク語の動機格語尾などと後置詞」，平成 25～27 年度科研基盤研究（C）課題番号 25370492「現代スペインの諸言語の形態論についての対比的研究」研究会，於三井ガーデンホテル四谷（東京都），2013 年 10 月 13 日。

〔図書〕（計２０件）
(1) 福嶌教隆・長谷川信弥（2015)『スペイン語大辞典』（山田善郎・吉田秀太郎・中岡省治・東谷穎人・監修）（共著。それぞれ 37 分の１担当)，白水社，2436Pp.。
(2) 福嶌教隆(2015)『スペイン語学概論』(高垣敏博・監修，菊田和佳子，二宮哲，西村君代・編）（共著。「第 6 章　動詞の叙法」，pp.77-91 担当)，くろしお出版。
(3) 福嶌教隆（2015)『まいにちスペイン語』

（NHK ラジオ講座テキスト），2015 年４月号 pp.73-110，５月号 pp.73-110，６月号 pp.73-110，７月号 pp.73-112，８月号 pp.73-110，９月号 pp.75-112，NHK 出版。
(4) 福嶌教隆（2015）『４コマ・スペイン語 中級』（福嶌教隆，Juan Romero Díaz 共著。２分の１を担当），朝日出版社，76Pp.
(5) 福嶌教隆（2014）『４コマ・スペイン語 初級』，朝日出版社，76Pp.
(6) 福嶌教隆（2014）*Presencias japonesas. La interacción con Occidente en la literatura y las otras artes*（Carbonell i Cortes, Ovidi (ed.)）（共著。”Las expresiones de rol ―un estudio contrastivo entre el español y el japonés―“, pp.35-44 担当），Ediciones Universidad de Salamanca. Salamanca (Spain).
(7) 福嶌教隆（2013）『テレビでスペイン語』（NHK テレビ講座テキスト），2013 年４月号 pp.1-97, 5 月号 pp.1-97, 6 月号 pp.1-93，７月号 pp.1-91，８月号 pp.1-91，９月号 pp.1-91，NHK 出版。
(8) 長谷川信弥（2016）『これでわかる！スペイン語の初級』（松本健二、ナカガワ・マルガリータと共著。文法事項を担当），朝日出版社，72Pp.
(9) 長谷川信弥・吉田浩美（2015）『世界の文字事典』（庄司博史・編）（共著。長谷川は「スペイン語」pp.48-51 を担当。吉田は「バスク語」の項，pp.68-71 を担当），丸善。
(10) 長谷川信弥（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』（立石博高･奥野良知･編）（共著。「カタルーニャ語の基本表現」, pp.52-56 等を担当）, 明石書店。
(11) 浅香武和（2015）『吟遊詩人マルティン・コダックス』，論創社，80Pp.
(12) 浅香武和（2015）『クラウディオ・ロドリーゲス・フェール著『頭髪』』（和訳），A Tola Soñando, I, Lugo (Spain), 33Pp.
(13) 浅香武和（2015）*Rosalía de Castro no século XXI: unha nova ollada,*（共著，”Contos da miña terra”, pp.994-1037 を担当），Consello da Cultura Galega, Santiago de Compostela (Spain).
(14) 浅香武和（2014）『マドリードとカスティーリャを知るための 60 章』（川成洋・編）（共著。「レオン語」pp.364-366 を担当），明石書店。
(15) 浅香武和（2014）『ロサリーア・デ・カストロ著『わが故郷の昔話』』（和訳・解説），DTP 出版，63Pp.
(16) 浅香武和（2013）『ガリシア心の歌・ラモーン・カバニージャスを歌う』，論創社，109Pp.。
(17) 吉田浩美（2015）『ブラック・イズ・ベルツァ』（訳）（Fermín Muguruza, Harkaitz Cano & Jorge Alderete “*Black is Beltza*”, Bang Ediciones, 2014〔原語：バスク語〕邦訳），ロケットミュージック，東京，128Pp.。
(18) 吉田浩美（2014）『バスク初文集』（萩尾 生，吉田浩美・編訳），（共編。２分の１を担当）（Bernat Etxepare, *Linguae Vasconum Primitiae*（1545）〔原語：バスク語〕邦訳），平凡社，240Pp.。
(19) 吉田浩美（2013）DVD “*Euskara Jendea*”（訳）（2013，Zenbat gara. 字幕〔原語：バスク語〕邦訳）。
(20) 吉田浩美（2013）*1928-03-15*（訳）（小林多喜二『一九二八年三月十五日』，1928，のバスク語訳）。Armiarma / Susa, Madrid (Spain), 90Pp.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
福嶌　教隆（FUKUSHIMA NORITAKA）
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：50102794

(2)研究分担者
長谷川　信弥（HASEGAWA SHINYA）
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号： 20228448

浅香　武和（ASAKA TAKEKAZU）
聖心女子大学・文学部・非常勤講師
研究者番号： 20516348

吉田　浩美（YOSHIDA HIROMI）
神戸市外国語大学・外国学研究所・客員研究員
研究者番号： 70323558

(3)連携研究者　なし